

あきらめないがん治療を追求 患者一人ひとりに寄り添い 最先端の放射線治療を提供



息の合ったチーム医療で患者を力強くサポートする

外来で行う がん放射線治療

「がんの治療」と聞いたときに、いったいどれくらいの方が、通院でがんを治すという選択を思い浮かべることが出来るだろうか。大阪市都島区にある都島放射線科クリニックは、最新の放射線治療技術を用いたがん治療を外来で提供している。今でこそ、手術、抗がん剤に並ぶ、がんの3大療法といわれる放射線治療



名誉院長 井上 俊彦

いのうえ・としひこ ●大阪大学医学部卒業。医学博士。日本医学放射線学会認定放射線科専門医、大阪大学名誉教授

が難しいとされる再発がんの分野でも、放射線治療を的確に行うことで20〜30%の患者に生存率の向上が見

だが、2007年に同院が開院した当初は時期尚早との声も少なくなかったという。大阪大学名誉教授としての実績を持ち、長年にわたって放射線治療に従事してきた井上俊彦名誉院長は当時をこう振り返る。「まだまだ手術や抗がん剤による治療が主流の時代でした。しかし、長年の研究や臨床データなどから、我々は早い段階でがん分野における放射線治療の有効性を感じていました。さらに、治療

込めることが分かり、当院の開院を決意したのです」。がん放射線治療の先駆けとしてスタートを切った同院だが、これまでの道のりは決して平坦なものではなかった。「まず治療内容をオープンにして、周囲の信頼を得ることが必要だと考えました。それに従い、しっかりとしたエビデンス（根拠）に基づいた治療であることを証明するための学術的な活動にも力を注ぎました」と呉隆進院長は語る。こうした取り組みが次第に評価されていき、現在、同院には、大学病院やがん拠点病院からも多くの患者が紹介されてくるという。「このような基幹病院との連携も、開院当初は考えられませんでした。それだけ放射線治療の有用性が認められてきた証でしょう」。放射線治療は、ここ数年の間で保険適用も大きく拡大し、その地位を確立している。

クリニックとしての強みを生かした診療



①患者のカルテを確認しながら行う合同カンファレンスの様子。②診察では患者の状態を把握できるようきめ細かなカウンセリングを行っている。③投与線量、線量分布図などの患者データを元に入念な治療計画を練る

な最先端のリニアック（放射線治療装置）であるノバリシステムを導入して治療に臨んでいる。この装置は、精密に計算されたコンピュータのシミュレーションシステムに基づき、患者一人ひとりの腫瘍の形

に合わせて、立体的に放射線を照射することができる。つまり、今までは治療の必要のない組織にまで当たっていた放射線の量を限りなく減らすとともに、腫瘍部分には高線量で照射でき、より精度の高い治療が可能



院長 呉 隆進

おう・ゆんじん ●ソウル大学医学部医学科卒業。日本医学放射線学会認定放射線科専門医

強調する。早期の前立腺がんや肺がんの場合には、手術よりも負担が少なく済むため、積極的に放射線治療を行う一方で、同

くありません。難しい症例であっても、集学的に治療を組み合わせることで、QOL（Quality of life：生活の質）を保ちながら、より延命を目指せると確信しています。さらに井上名誉院長が続ける。「近年、放射線治療はめざましい進歩を遂げており、今後さらなる進歩が見込めるでしょう。医師として、攻めの治療を積極的にやるべきだと感じています。あきらめないという強い気持ちで治療に臨んでいる患者さんは実際に長生きしています。そういった方々のためにも私たちは治療に最善を尽くしたいと考えています」



ノバリシステムは、高精度な放射線治療を可能にする最新鋭のリニアックだ

しかし、呉院長は、最新機器を用いても使いこなせる技術や知識がなければ意味がないと指摘する。「同院は、日本医学放射線学会認定の放射線科専門医7名が在籍しているほか、物理士、診療放射線技師と放射線治療分野のエキスパートが揃っています。さらに、治療前には必ず全員でカンファレンスを行い、患者さんにとって一番良い治療となるよう医院全体で綿密な治療

適応患者を見極めてさらに効果的な治療へ

近年、治療技術の進歩により、がん治療への高い有効性が期待される放射線治療だが、適応患者を見極めることも大切だと呉院長は

計画を練っていきます。また、呉院長は、縦よりも横の関係を重要視しており、日頃からスタッフと密にコミュニケーションを図ることで、立場や職種の壁を越えたチーム医療の実践に努めている。「当院では、事務部のスタッフまでがしっかりと患者さんのデータを認識してお迎えています。日頃からスタッフが一人ひとりに、患者さんをきめ細かな対応でケアするなど、小規模なクリニックだからこそその利点を生かした診療を心がけております」

院長は訴える。がんの再発や遠隔転移など、治療が困難とされるステージIVの患者でも、転移箇所が少ない早期の再発がんであれば、放射線治療で救える場合もあるのだという。「がんが再発したという事実だけで、助かる可能性のある患者さんに治療をあきらめてほし

INFORMATION

診療科目：放射線治療科
 受付時間：平日9:00～12:00 / 13:00～17:00
 休診日：土・日・祝・年末年始
 〒534-0021
 大阪府大阪市都島区都島本通1-16-22
 TEL.06-6923-3501 (代表)
 FAX.06-6923-3520

<http://www.osaka-igrt.or.jp>

取材／秋元愛